

令和5年度 市民公開講座 報告書

2023年11月1日

報告者：山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座

開催日時：2023年10月21日（金）13時00分～17時30分

開催場所：山口大学医学部附属病院 A棟1階オーディトリウム

参加定員：会場300名程度

参加対象者：宇部市居住者または宇部市在勤・在学者

参加申し込み方法：宇部市障害福祉課へ事前申し込み制

開催形式：会場参加のみ

講演者：厚生労働省 松浦拓郎様

山口大学医学部社会連携講座 山根俊恵教授

ジャーナリスト 池上正樹様

参加人数：会場参加者187名

概略：

厚生労働省による支援体制の構築に向けて概況、ひきこもり支援施策と市町村への期待について1時間の講演が行われた。講演2題目は山根教授による支援体制の取り組みについて30分で講演があった。3題目は、池上氏によるひきこもり本人と家族についての実際支援について、1時間半の講演が行われた。その後ひきこもり当事者と家族によるパネルディスカッションが山根教授の進行で行われた。

内容：

講演1「ひきこもり支援施策の動向と市町村への期待～身近な地域における支援体制の構築に向けて～」松浦拓郎様

講演2「市を中心とした支援体制の取り組みについて」山根俊恵教授

講演3「ひきこもり本人や家族を救える支援とは」池上正樹様

パネルディスカッション「ひきこもり経験者・家族が求める支援」ひきこもり経験者・家族

以下、終了後のアンケート結果（p2～11）を添付する。

市民公開講座アンケート集計結果

回収状況

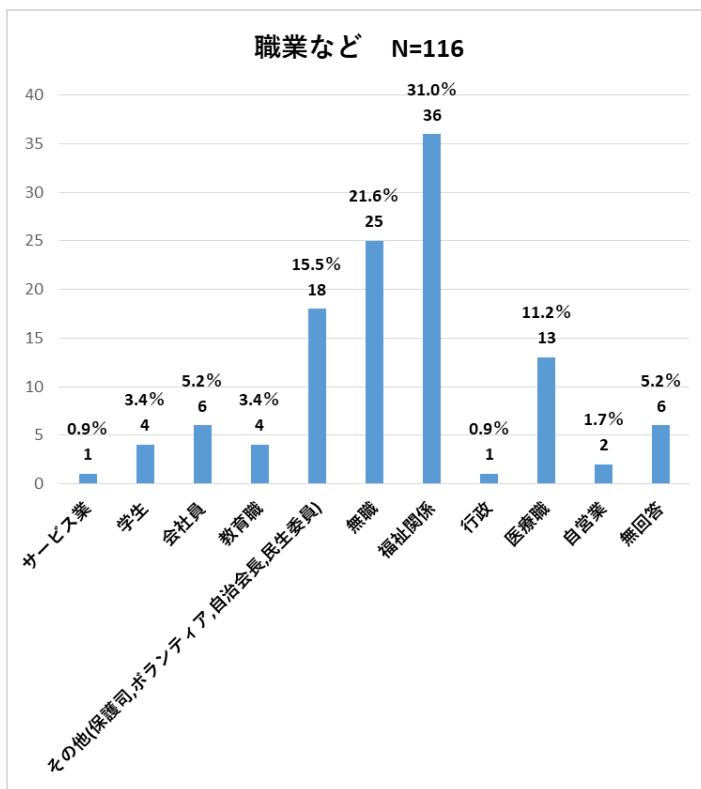
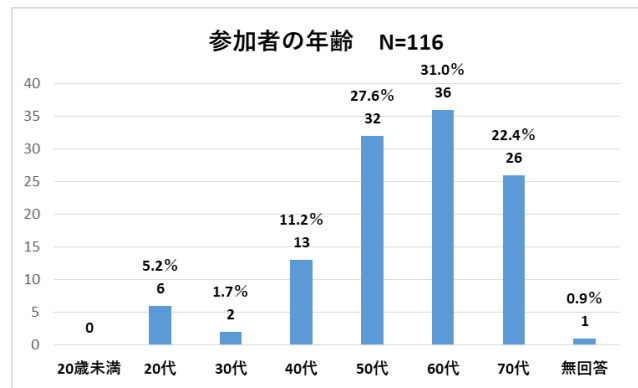
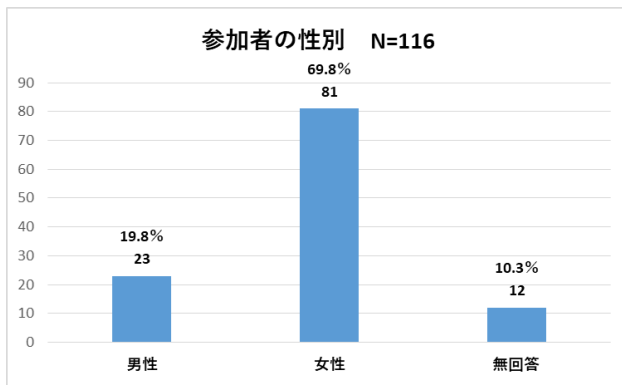
参加者 155 名にアンケート用紙を配布し、116 枚の回答を回収した（回収率 74.8%）

1 基本属性

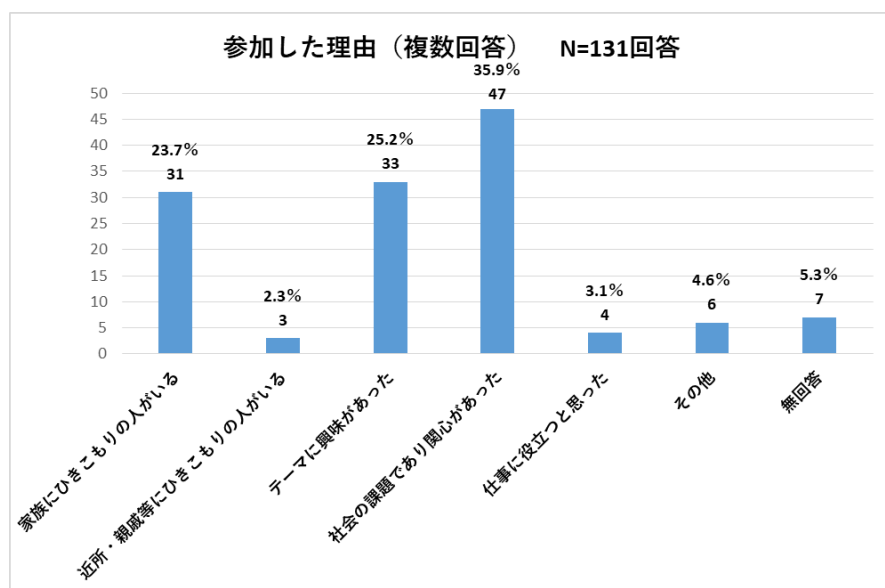
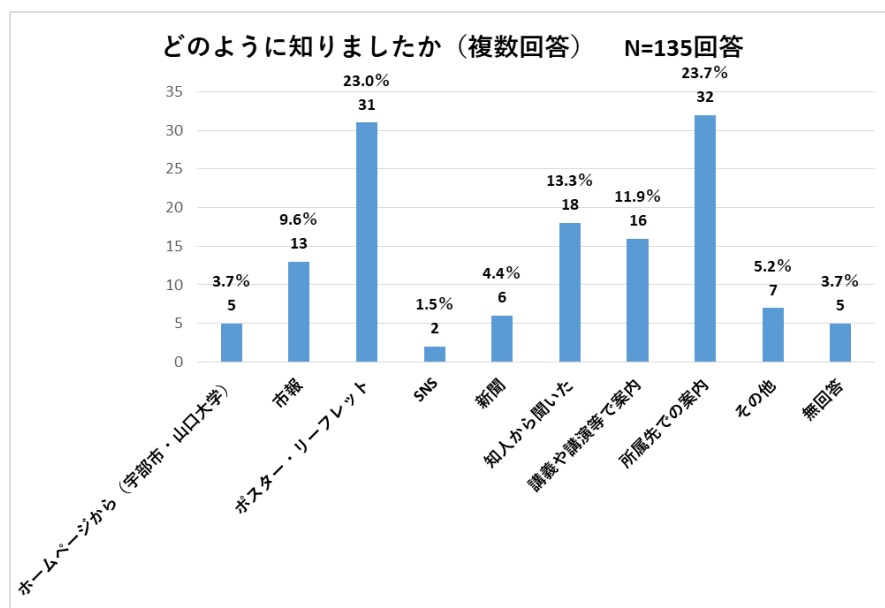
「女性」81名、「男性」23名、「無回答」12名であった。

60歳代が36名で多く、続いて50歳代が32名、70歳以上が26名であった。

職業は福祉関係36名、無職25名、医療職13名であった。



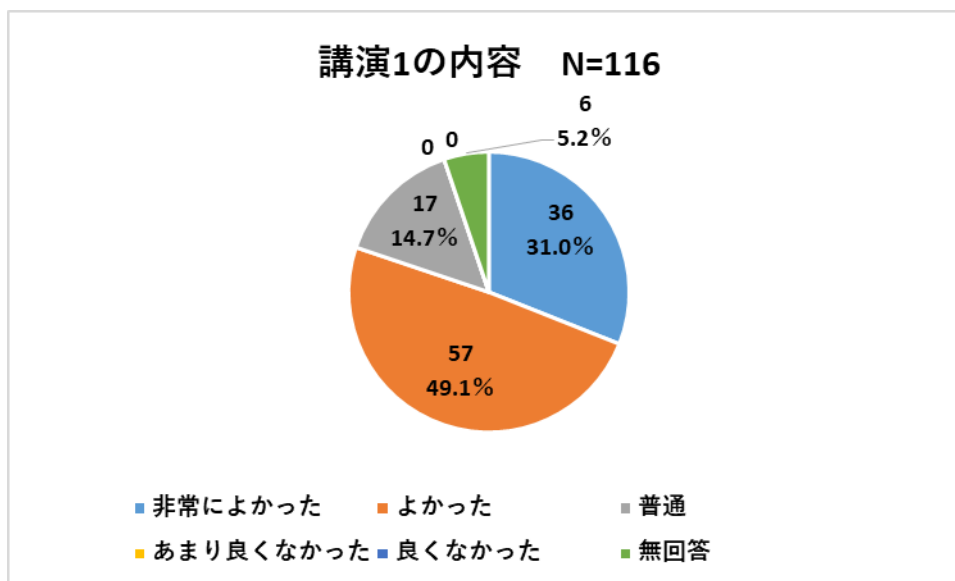
2 市民公開講座について



「どのようにして知ったか」について「所属先での案内」が32名、「ポスター・リーフレット」が31名であり、令和4年度とほぼ同様であった(令和4年度は所属先32名、ポスター29名)

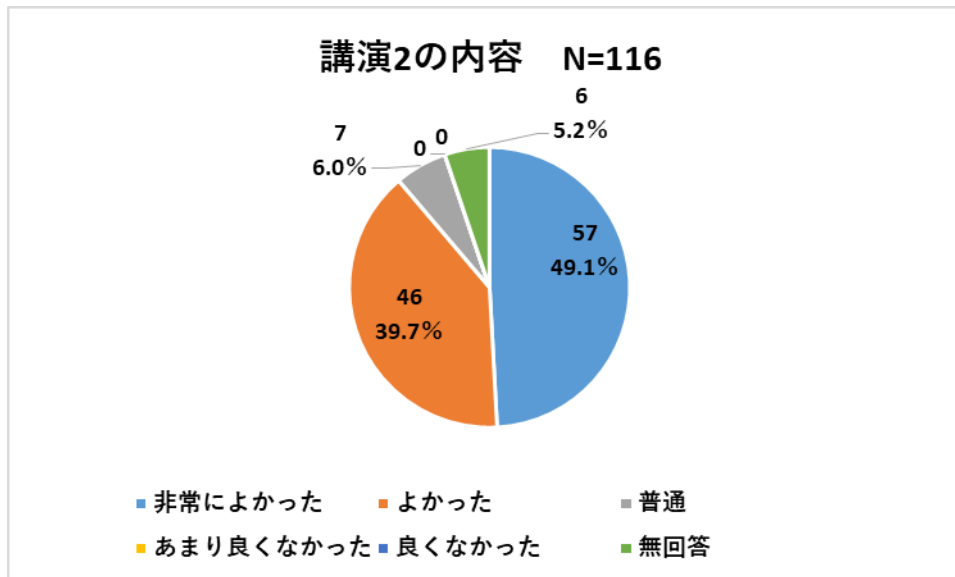
「講義や講演会で案内」が10名であった(令和4年度6名) 「SNS」は2名(令和4年度10名)であった。参加した理由は、「社会の課題であり関心があった」が47名、「テーマに興味があった」が33名、「家族にひきこもりの人がいる」が32名で令和4年度とほぼ同様の結果であった。

3 ①講演1の内容



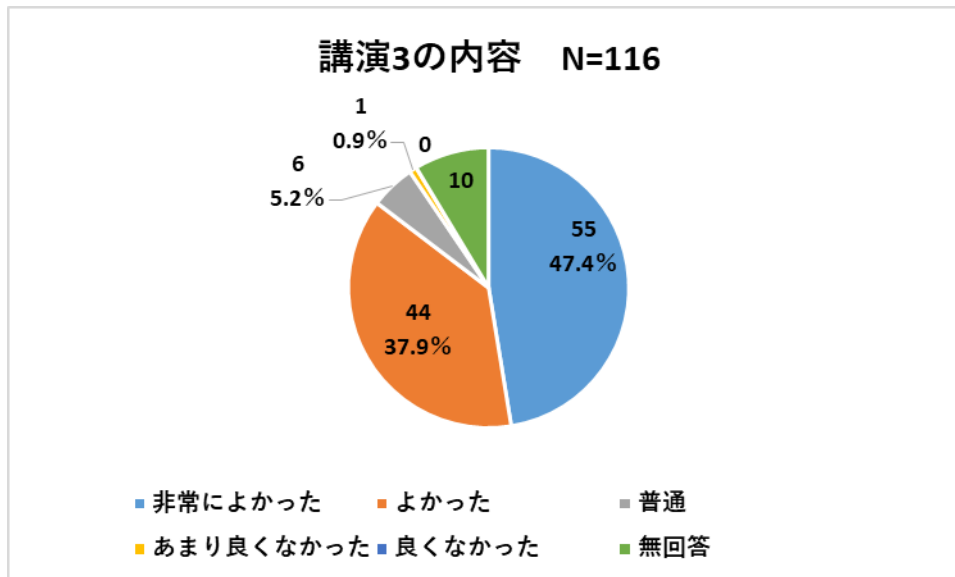
- ・ 歴史(資料)が分かりやすかった。実態が理解できた。(11名)
- ・ 資料が多く短時間では難しかった。字が小さすぎて見えなかった。
- ・ ひきこもり支援の枠組みが理解できた。(3名)
- ・ 細かい資料もとてもご丁寧に説明をいただきました。
- ・ 表面にでたひきこもり者は一握り、何の手助けができるのか。
- ・ 窓口があることを知った。
- ・ 自転車のことで、社協と協力している例など具体的なことを知ることができた。
- ・ 宇部市の支援体制の方が密に行われていると思う。1人でも多く繋がってほしい。
- ・ 近所に対象者がおられるので、その方への接し方がわかる。
- ・ 行政のしくみは分かるが、当事者に分かってもらえるような分かりやすい仕組み作りが必要ではないか。結果として「たらい回し」にされる気がすると感じた
- ・ 国の動向がとても参考になる。

4 ②講演2の内容



- ・宇部市での支援がわかりました。支援の現状が詳しく聞けた。(7名)
- ・再度学習し勉強になった。
- ・社会が問題と捉えていることが問題という意見は賛成。
- ・支援システムの良さが改めて理解できた。具体的な話しで聞きやすかった。(3名)
- ・先生のお言葉は「力」になります。(3名)
- ・私の背を押してもらってとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・形だけではない本当の支援を目指しているところ
- ・「ひだまり」や「ひより」の活動のイメージがわいた。
- ・もっと講演を聞きたかったです。
- ・市の現状、どんな所で支援されているかがよくわかりました。
- ・実習でもお話を聞きましたが、学んだ事や熱量を改めて感じられた。
- ・支援する上で何が大切か支援のノウハウに関わることなど学ぶことが多かった。
- ・宇部市より山口県全市に広がってもらいたいと思いました。
- ・ふらっとコミュニティのひきこもりへの関わりを知ることができました。
- ・ひきこもり支援は家族支援というのがわかった。
- ・もう少し時間が取ればもっと良かったと思います。
- ・わかりやすく、聞き手に訴えるような講演であり、とても心に響きました。
- ・より引きこもりの方に密着したサポートが必要だと共感できた。
- ・伴走型支援の重要性などを詳しく拝聴出来て良かったです。
- ・具体的で分かりやすかった 一言一言が心にささった。
- ・具体的な取り組みや、家族そして本人へのアプローチなどが理解できた。引きこもりにも色々な状態があり、一人一人がそれぞれの方法で社会とのつながりができそれが続くことが重要だとおもう。
- ・市がこれだけ取り組んでいるとは思っていなかった。分かってよかった。

5 講演3の内容

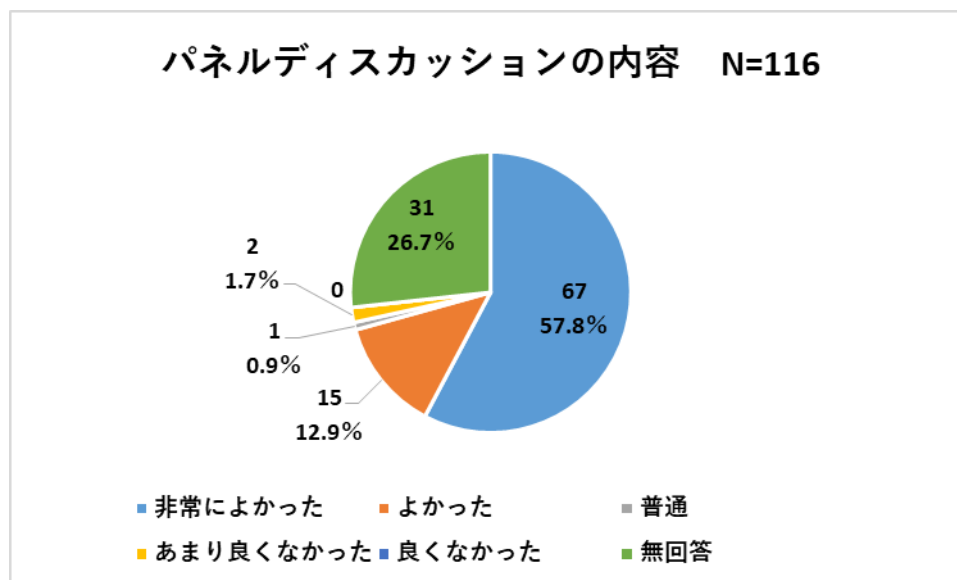


- ・パワーポイントがとても見やすくわかりやすかった。4名
- ・KHJのメンバーズの紹介が新鮮でした。当事者も参加しやすいのでは！
- ・内容が怖かった。これがリアルだと思った。「好転」「成果」答えは1つではない納得。「旅立ち」は絶望モデルにならないのか。「みんなが当事者」確かに。
- ・当事者の気持ちが何でこんなにわかるの？と思いました。
- ・カラー版なので大切なことが把握しやすかった。
- ・個々の状況に合った役割づくりが大切と知れてよかった。
- ・とてもたくさんある情報を要点化してコンパクトに説明いただきました。
- ・事例は一人ひとり違う。具体例が多かった。(3名)
- ・本人や家族の思いがよくわかった。(2名)
- ・家族目線の話が聞けて良かった。家族をケアすることがひきこもり本人のケアにもつながると思います。
- ・再度家族支援について振り返られた。「助けて」と言ってもらえる支援者になればいい。
- ・「本人が一番苦しいのだから、家族は本音を言っはいけない。」ではない。家族会がいかに大事なのかわかります。
- ・支援の手が届かない多さに驚きました。魔法の言葉使いたいです。
- ・思いやりのある人が増えて優しい社会になると、苦しむ人が少なくなって生きやすい温かい社会につながると思いました。
- ・事件の背景にも、ひきこもり家族の問題がからんでいることがわかった。
- ・「ひきこもり支援に必要なまなざし」の中で、1人の成功事例のPRは絶望モデルになるということがあり、印象に残りました。
- ・ひきだし業者のお話はとても辛い気持ちになりましたが、親も子も居場所を作り孤立しないことのお話に、これからも家族会には出席して多くの情報を得たいと思います
- ・居場所の支援の必要性は改めて感じました。社会に出た際の社会側の支援も必要だと感じ

ました。

- ・KJTの副理事長、ジャーナリストとしていろいろ支援をされていることに感動しました。
- ・ひきこもりの実態がとてもよく分かり、正しい理解の大事さをとても実感した。
- ・家族会の先進的な取り組みを知ることができました。
- ・支援を考えるにあたり、とても参考になりました。
- ・全体を通して気持ちが重くなるような話が多かった。それが現実なのだろうと思う。
- ・実際に関わる方たちの、ご苦労は大変だと感じた。さいごのひきこもりメタバース居場所と言うのはとても良い取り組みだと思う。
- ・安易に医療につなげる支援に疑問を持っていました。現在、レッテルを貼って支援方法を考える手法に疑問を持っていました。
- ・お話がすごく誠実で良かった。就職をゴールとしない支援が大切だということ同感です。

6 パネルディスカッションの内容



- ・当事者、当事者の母、双方の思いを知ることができた。(2名)
- ・生の声なので、ものすごく聞き入ってしまいます。(7名)
- ・普段は自分の目の前のことでいっぱいですが、同じ悩みを共有する人の言葉を聞き、少しずつ前進したいと思います。
- ・感動しました。考えさせられました。お疲れさまでした。(6名)
- ・本人が一番苦しいということ、改めて思いを深くしました。(2名)
- ・話されにくいことを聴かせて下さり本当にありがとうございました。
- ・もっと多くの当事者のお話が聴けるといいと思いました。
- ・当事者さん、開口一番「両親、兄弟に感謝しています。」と涙声になられ、私も涙ぐんでしまいました。
- ・ひきこもり状態にある、なしに関係なくまずは一人ひとりその人の今を理解し、認めたいと強く思った。

- ・当事者、ご家族の言葉、思いが響きました。苦しさや勇気、希望を感じ心が動きました。
- ・当事者の声を聞くことができ、どういう状態なのか、何を求めているのかがわかったため当事者の方の辛さなどが胸に突き刺さりました。
- ・ひきこもりの家族ではないけれど、親として考えさせられることがあった。
- ・当事者の方の体験や思いを生で聞けてとても良かったです。自分が経験したことがない事は本当にわからないので。
- ・パネルディスカッションで貴重な体験談を聞いて苦しさ分かり、すごく良い講演だった。
- ・当事者の話が心に響きました(6名)

4 受講後、変化した点

- ・「親を拒絶しているのではない。」というお話が沁みました。
- ・変化は特に感じませんが、とにかく自然体で無理せずということを改めて思いました。
- ・ひきこもりの人を見つけるのは難しい。
- ・本人の気持ちに寄り添っている風の仕事をしてきたのではないか？と感じた。本人の思いを知りたいと思う。
- ・今日の講座で、すばらしい学びができました。ありがとうございました。
- ・相談があった時の声のかけかた。
- ・もう少し国の動き、KHJの動きを勉強しようと思った。
- ・エネルギーUP
- ・講演1で、今しようとしている国の事業が市に降りてくることの嬉しさを感じた。
- ・元気がでました。
- ・早速取り入れてみようというヒントをたくさんいただきました。
- ・地域で伝えてもなかなか拡散できないが、今日参加すると地区の委員が複数来ていてうれしかったです。
- ・奥深い講演内容で多方面からの見方ができるように思えた。
- ・いろいろ分かっていたつもりでしたが、本人の辛さがもっとよく分かりました。
- ・支援のときの声かけの参考になった。(3名)
- ・あらためて日々の支援を振り返るきっかけとなる点多々あった。
- ・家族支援がなぜ大切なのか、そこが良く理解できて家族支援への認識ができた。
- ・もっとひきこもりについて学んでみたいと思います。(3名)
- ・ひきこもり、不登校、ヤングケアラー等地域の中での考えさせられる課題が山積みしています。少しでも力になればと思います。
- ・特にない。同意できる話が多く、考える方向にまちがいはないと感じた。
- ・ひきこもりは「生きるためにエネルギーをためている充電期間」と捉えることが大切。

- ・同じ悩みを共有する人の言葉を聞き前進したい。
- ・こういった講演に参加させていただくと、自分たちだけではない、支えて頂ける方々に感謝と共に家族と接することができます。
- ・心が暖まりました。
- ・苦しむ家族の話に耳を傾けて聴く姿勢を持ちたいと思う。
- ・今後の対応に大変参考になった。
- ・とても気持ちが楽になりました。
- ・知識として理解できた。地域で協力したいと思う。(2名)
- ・初めてひきこもりの人の事を学び、お話を聞くことができよかったです。
- ・大変なことだと思い、よく山根先生の集まりなどの記事を見るが、素晴らしいことをされていると思いました。素晴らしいことを地道にされている。
- ・肯定的に受け入れることが大切！理解していても行動できるようになりたい。
- ・知らぬ間に相手を責めていた。もっと優しくしたい。先回りしない。
- ・ひきこもりは一人ひとり違うため、それぞれに合った働き方があるのではないかと感じ、それに向けて本人と話し合っていきたい。
- ・人間一人ひとり素晴らしい可能性をもっている。尊重する事を大切にしていきたい。
- ・ひきこもり支援は社会全体の課題であると感じました。
- ・一人ひとりに合った関わりの大切さ。勇気をもって相談に来られている方の対応を考えさせられました。
- ・挨拶からスタートして会話ができるようになりたいと思います。
- ・信頼関係を築いていくことの重要さを感じた。
- ・ひきこもりは潜在化されやすいことだと思われるが、当事者はとても苦しんでいて、助けを求めている。よって、しえんをしていくひつようがあると改めて感じた。
- ・昭和の人間の弊害を思い知ります。
- ・個々にあった支援の重要性、支援者自身の知識の獲得、学びが大切であると改めて感じた。
- ・親として自分の「すべき」を子供たちに押しつけていた気がする。
- ・色々な視点での考え方

5 今後参加しやすい日程や時間帯

土曜 午後 (16名)

土曜、日曜、祝日 (5名)

土日の昼間 (4名)

土曜 午前 (3名)

6 その他感想

- ・普段聞かないような、当事者の声をかけたことがとてもよかったです
- ・講演 1、2 も聞けたらよかったと思う。また機会あれば参加したいです。
- ・参加して良かったとしみじみ思います。生活困窮者自立支援制度なるもの初めて知りました。TV で、山根俊恵先生の取り組みを知り、心強く思います。途中で気になった事は、引きこもる場所のない人はどうしているのでしょうか？市民啓発活動も是非お願い致します。今日は、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・伴走型支援は大切だと、改めて思いました
- ・パネルディスカッションでは当事者さんの声を聞くことができ、とても貴重で良いお話を聞くことができました。今後の自分の対応について生かせるようにしたいと思います。
- ・この会を開かれます山根先生他みなさまのご努力に感謝いたします。
- ・ちょっと長いかな。
- ・大変力になりました。
- ・初参加でしたが、支援・活動の実際が理解出来た。不登校の問題に関心がある。今後も見回りを続けて声かけしたいと思う。
- ・また機会があれば参加したいと思います。
- ・再確認ができた。
- ・ひきこもりという言葉、ネーミングが気になっている。SDS という呼称を初めて認識しました。
- ・ひきこもりの現状や、どのようにつなげるのか等参考になった。
- ・席にゆとりがあり机もあり、大変快適に受講でき、良く学ぶことができました。
- ・壁や柱等に研修のチラシが貼ってあり、どこが会場なのかとても分かりやすく進むことができました。
- ・宇部市講座ですが、公開講座で他市からの参加もでき、とてもありがたかったです
- ・資料は多かったが、具体的な分わかりやすかった。また理解しやすかった。細かい事例紹介も役に立ちそうです。人はなぜもっと客観的に広い視野で物事を見られないのでしょうかね。
- ・私はプロではありません。相談窓口プロの支援者につなげる事の大切さを知る事ができた。寄り添うことの大事さ。
- ・本当に市民の方々が多く参加されていて素晴らしいと思いました。
- ・先ほど不登校 29 万人の発表があり不登校も緊急の課題です。前回同様当事者の方の思いが聞けてよかったです。
- ・行政の窓口のスキルアップは必要と思います。
- ・市民講座の開催、宇部市は素晴らしいことです。一般の人にも理解してもらう第一の方法です。遠い道のりではあるのですが。県内でも多くの支援者ができますように！盛りだくさんの内容で開催側の方々はお疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・山根先生を始め家族会の方々、支援者の方々、その他関わっていただいている全ての方々

のお陰でこういう状況にある方の事を理解し支えて頂いているのだと感じました。

- ・やっぱり医療は地域や当事者とつながっていないことを再認識します。
- ・様々な立場の人が集まって色々と共有できることがとても貴重でした。
- ・パネルディスカッションが始まってすぐの時のハウリングが少し辛かったです。体の元気な高齢者にも良い居場所があれば良いなと思いました。あまり年齢の区切りなどを作らずに必要な人に必要なケアが生き渡る様であれば、とても素晴らしいと思います。
- ・つらいのは本人だけでよい。周りの人も本人の気持ちになって考え行動。
- ・これからも私自身のためにも学び続けようと力をもらうことができました。
- ・このような講演が他の地区でも開催されるようになるといいと思います。
- ・当事者さんの話が聞いて心が動かされました。支援者として相談に来られた方と一緒に考えて感じていきたい。
- ・(講演)1.3がもう少し短くても良いと思いました。パネルディスカッションがもう少し早くあると帰られる人が少ないのかなと思いました。とても良かったので。
- ・ひきこもり支援専門官や池上さんの話が直接拝聴できてよかった。山根先生の相談実績の増加にびっくりしました。
- ・宇部モデル支援しています。何かお手伝いできることがあればと感じました。
- ・アウトリーチは何の意味でしょうか。
- ・行政のひきこもりに対して、対応しようとする姿勢を感じる事ができた。将来もっと当事者や家族の本当にしてほしい支援をしてほしい。
- ・行政の職員の異動が早く信用する間がない。次の人になってしまう。
- ・当人のひきこもりの声などの発表されるものが欲しいと思いました(パンフレット)
- ・山根先生の勉強会でのご指導で、うちの娘も以前に比べてはるかに良くなってきました。なのでパネリストのお二人のお話は特に私の感情にしみ渡りました。
- ・今後も機会があればぜひ出席したい。
- ・ひきこもりの親が悪い、本人が悪い、制度が悪い、居場所がないので悪い、職場が悪いなど何かが1つ悪いというわけではなく、全てがからみあって出ている課題だと感じた。
- ・貴重な話を聞くことができました(5名)
- ・1回ぐらいでは難しい問題なので、回を重ねて話を聞かないとダメだと思いました。
- ・「ひきこもり」について初めて講演を聞き勉強になった。